




# 感染症に気をつけよう!

2020年【8月号】

## 横浜市内の感染症 流行状況



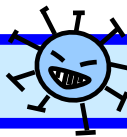
感染症**	流行状況		説明【解説付き既刊号等】 ← クリック
腸管出血性 大腸菌感染症*	 発生	 横ばい	6月から報告が増えました。例年、初夏から初秋にかけて多く報告されます。【'19.9号】【ちらし】
新型コロナウイルス 感染症**	 発生	 増加	市内でも報告が続いています。 【患者発生状況(記者発表事例)】【'20.7号】
小児科定点医療機関 からの報告*	 発生		例年、夏に流行する手足口病・ヘルパンギーナ・咽頭結膜熱(プール熱)は報告数が少ないです。

参考ホームページ \*:厚生労働省 \*\*:国立感染症研究所 横浜市衛生研究所

横浜市感染症情報センター



## 今、気をつけたい感染症

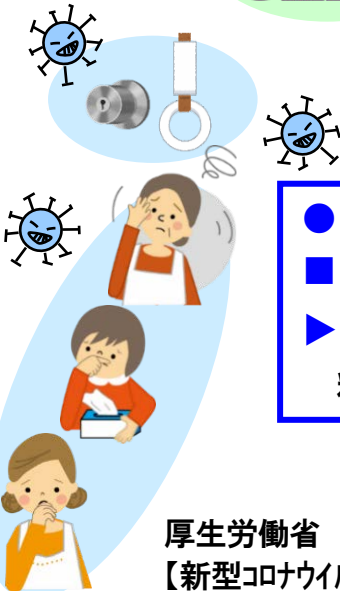


## 新型コロナウイルス感染症



- 外出先からの帰宅時・調理の前後・食事前など、こまめに手を洗いましょう!
- 感染している人がくしゃみや咳を手で押さえた後、その手でドアノブや電車のつり革など、周りの物に触れるとウイルスが付きます。
- ▶ 他の人がそれらの物に触るとウイルスが手に付着し、その手で目・鼻・口に触ると、粘膜からウイルスが体内に入り感染(接触感染)してしまう可能性があります。

- 洗っていない手で、目・鼻・口などを触らないように気をつけましょう!
- 人は無意識に顔を触っています。
- ▶ その頻度について\*は、1時間に平均23回、そのうち目・鼻・口などの粘膜は約44パーセントを占めているとの報告があります。



厚生労働省  
【新型コロナウイルスに関するQ&A】



横浜市保健所  
【新型コロナウイルス感染症対策】

